

ロンドン大学衛生熱帯医学校・長崎大学ジョイントセミナー

London-Nagasaki Joint Seminar

場所：長崎大学坂本キャンパス ポンペ会館

日時：2014年10月28日 午後1時開始

平成27年10月に開講を予定している長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科では、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院(London School of Hygiene and Tropical Medicine, 以下LSHTM)との連携を強化し世界レベルの研究教育活動を目指しております。今年3月には、ロンドンで長崎大学マーケットプレスセミナーを開催し、山下俊一理事らによって長崎大学の活動を紹介して参りました。

この度、LSHTMより4名の著名な教授陣を長崎へお招きしました。新研究科の専任教員になられる皆様とLSHTMの教授が、お互いを知る良い機会になればと思い、合同セミナーを開催することに致しましたのでご案内申し上げます。

今回のセミナーでは、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科専任教員の活動紹介を含めながら、前半では「感染症・創薬」をテーマに、LSHTM感染症・熱帯病研究科長のサイモン クロフト教授より、熱帯感染症を含む感染症分野の創薬について、世界の動きと日本への期待を語っていただきます。また、日本で生まれたトラネキサム酸が世界の注目を浴びるきっかけをつくったLSHTM臨床治験ユニット長のイアン ロバーツ教授より、その背景を語ってくださいます。セミナーの後半は「公衆衛生・政策決定」がテーマです。今話題のHTA (Health Technology Assessment, 医療技術評価)、その本家である英国国民健康サービス (NHS) でアドバイザーを務めるジョン エドモンド教授 (疫学・集団ヘルス研究科長)とジョン ケインズ(公衆衛生・政策研究科教授)より、それぞれ疫学・数理モデルと医療経済の専門家としての立場から、英国や世界の保健医療政策がどのように決まってくるのか、ご経験とデータをもとに語っていただきます。

今回は、新研究科の専任教員になられる先生方と大学院生を中心にご案内させていただいておりますが、LSHTMについて、また、英国の医療に対する考え方についても知る貴重な機会と存じます。新研究科専任教員外の方の参加も可能に致します。興味のある方は、どうぞお誘いあわせの上ご参加下さい。

連絡先：佐藤光 熱帯医学研究所教育室 (内線 7834)

コーディネーター：有吉 紅也

プログラム

総合司会：

有吉 紅也

クリス ペリー（新研究科就任予定長崎大学教授）

13:00～13:15 開会のご挨拶

片峰茂 長崎大学学長

LSHTM 代表

13:15～13:45

演者 ジョン エドモンド教授(LSHTM 疫学・集団ヘルス研究科長)

「LSHTM の紹介」

13:45～15:45 創薬・感染症

座長： ローサボーン チャントラ 教授

演者 1. サイモン クロフト教授 (LSHTM 感染症・熱帯病研究科長)

「感染症・熱帯病のための研究開発(R&D)：グローバルな取組と日本の役割」

演者 2. 平山 謙二 教授

「熱帯感染症の創薬研究 (仮)」

演者 3. 濱野 真二郎 教授

「新種の腸管原虫下痢症について (仮)」

座長： 前村 浩二 教授

演者 4. イアン ロバーツ教授(LSHTM 臨床治験ユニット長)

「日本で生まれた薬が地球の人々の健康を改善する；トラネキサム酸の例より」

演者 5. 西田 教行 教授

「スパコンの創薬研究への応用 (仮)」

演者 6. 泉川 公一 教授

「重症熱性血小板減少症候群について (仮)」

15:45 ~ 16:00 <コーヒー・ブレイク>

16:00 ~ 18:00 政策・公衆衛生

座長： 神谷 保彦 教授

演者 7. ジョン エドモンド教授(LSHTM 疫学・集団ヘルス研究科長)

「数理モデルが、英国や地球規模のワクチンプログラムにどのように活用されているか；日本への期待」

演者 8. 橋爪 真弘 教授

「環境と感染症に関するお話し (仮)」

演者 9. 皆川 昇 教授

「マラリアに関するフィールド研究について (仮)」

座長：青柳 潔 教授

演者 10. ジョン ケインズ (LSHTM 公衆衛生・政策研究科教授、英国 NHS アドバイザー)

「日本のユニバーサル・ヘルス・カバレッジと英国の国民保健サービス (NHS)；どちらのモデルがグローバルヘルスに適しているか」

演者 11. 小澤 寛樹 教授

「海外日本企業向けメンタルケア；アンド・メンタルについて (仮)」

17:45~18:00 総合討論

18:00 ~ 懇親会 (会費制)